

1 研究主題

不登校に関する教員研修における特別支援教育の視点の導入について

香川県教育センター 主任指導主事 石井 祐子

2 研究の具体と今後の課題

近年、不登校の背景として発達障害がうかがわれるケースがあり、学校での適切な支援へのニーズが高まっている。そこで不登校に関する教員研修において、発達障害等に対応した特別支援教育の視点を踏まえた支援に関する内容を充実させることを検討した。

研修参加者は不登校に関心のある小・中学校教員で、その校務分掌は教育相談担当、特別支援教育コーディネーター、生徒指導主事等と多岐に渡った。研修内容は、従来の不登校対応に加えて、発達障害とその二次障害を考慮した支援の重要性を示す項目を含めた。また校内支援体制として、教育相談担当、特別支援教育コーディネーター、SC、SSW、他機関等との連携による多面的な理解と支援の充実に関する講話と演習を実施した。

研修後のアンケートでは、「不登校と発達障害との関係は大きいと実感した」「専門的な支援が必要だ」「それぞれの生徒の困り感の特徴に応じた支援の仕方を勉強したい」等の感想があり、不登校対応に特別支援教育の視点を導入することの重要性が示唆された。

今後は、不登校の支援についての研修において、発達障害やゲーム依存等の疾患との関連性に関する知見、またそれに関係する医療機関との連携に関する内容についても導入することを検討していきたい。

1 研究主題支援を必要とする児童を含む小学校の通常の学級における
当番活動と係活動を取り入れた実践研究

善通寺市立東部小学校 教諭 杉本 佳加

2 研究の具体と今後の課題

本研究では、支援を必要とする児童を含む小学校の通常の学級における運営上の工夫について1年半に渡って追跡して検討した。具体的には、特別活動の学級活動を利用し当番活動と係活動を取り入れた実践を行い、学校適応感尺度と自由記述により評価をした。当番活動では、1人1役を担うことを通して責任感や自己有用感を感じさせることを目的とした。係活動では、自分の好きなことを選択させることで積極性や自主性を引き出し、安心して過ごすことのできる学級を目指した。当番活動と係活動を行うことで、級友のために行動することのやりがいや、周囲の人たちと共に感じる楽しさに気づかせることができた。また、安定した学級が支援を必要とする児童をとりまく環境を整えることにつながることも示された。

本研究は、1年半を通して学級や児童の変化を検討しているが、単一の学級の児童を取り上げたものである。結果に影響する要因として、学級担任の経験や技量等は無視できない。本研究で得られた結果が、他学級でもみられるかどうかを追試する必要があると考えられる。特別活動の取り組みによる学級づくりのプロセスや発展の可能性について、複数の学級で長期にわたる変化を見ていくことが今後の課題である。